

『ポストモダニティの条件』第2週目 プレレジュメ

発表にあたって

本章において筆者は、〈モダン-ポストモダン〉という二分法を用いたハッサンの表に基づいて、いくつかのキー概念を参照しながら、ポストモダンを概観しようと試みています。そのテキストに基づいてポストモダニズムを理解したいが、概念の整理だけでは表面的な理解に留まってしまうので、そこで私達は一步踏み込んで、作品を読み解き、それについて議論することによって、ポストモダンによって何が可能になったのか、それがもたらした「開放的」なものとは何か、その時代に生きた彼らの問題意識は何であったのか、というようなところまで迫っていきたいと考えています。

このプレレジュメでは、今回の発表の中で最も重要であろう概念やキーワードをピックアップしています。ですがこのプレレジュメはあくまで必要最低限の情報です。文献を読み進めていくに当たって分からない用語等がありましたら、各自で調べてきてください。さらに、第一週目の発表&レジュメを復習することで、より今回の発表の理解を深めることができることでしょう。みなさんには能動的な姿勢でゼミに臨んでいただくことを希望します。

キーワード&キーパーソン

【ジャン・フランソワ・リオタール】

フランスの哲学者。「ポストモダンの条件」の著者であり、ポストモダニズムにおける代表的な論者である。リオタールは啓蒙という「大きな物語」への信頼をモダニズムと捉え、ポストモダニズムをその不信と捉えた。

【大きな物語の終焉】

1979年に刊行されたジャン・フランソワ・リオタールの主著「ポストモダンの条件」で提唱された概念。大まかに言えばこの場合の「大きな物語」とは第2次世界大戦後の米ソ冷戦構造やその構造によって規定された「モダンな」文化状況を、「終焉」とはヘーゲル的な「歴史の終焉」を意味している。80年代に隆盛を迎えるポストモダニズムを正確に予見した概念として大きな反響を読んだ。

【脱構築】

フランスの哲学者ジャック・デリダが提示した概念。広義の意味としては、ある対象を解体し、それらのうち有用な要素を用いて、新たな、別の何かを建設的に再構築することという。この場合、形而上学、文学に留まらず、あらゆる分野に広く用いられている。